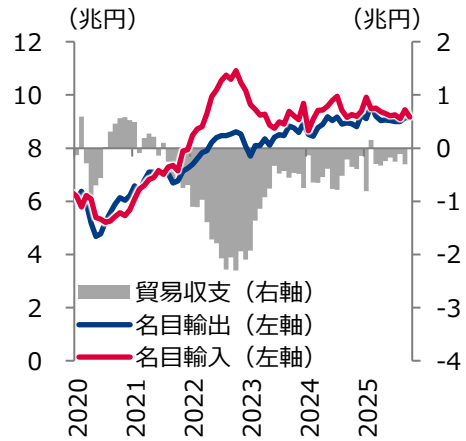
日本

貿易統計（2025年10月）

# 米国向け輸出は持ち直したものの、関税の悪影響は発現途上

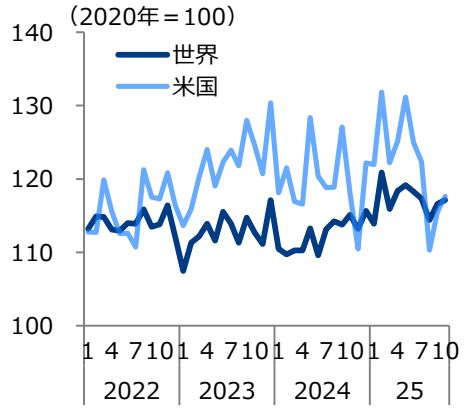
政策・経済センター
山本道也・堂本健太
03-6858-2717

## 1 名目輸出入・貿易収支



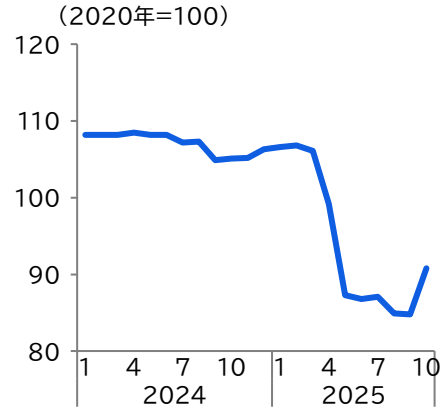

注：季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」を基に三菱総合研究所作成

## 2 実質輸出



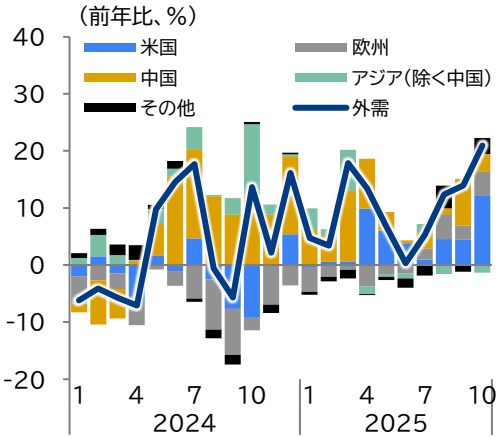

注：当社による実質・季節調整値。米国向け輸出の輸送機械は北米向け乗用車物価を用いて実質化。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」を基に三菱総合研究所作成

## 3 北米向け乗用車輸出物価（契約通貨ベース）




出所：日本銀行「企業物価指数」を基に三菱総合研究所作成

## 4 海外向け工作機械受注




出所：一般社団法人日本工作機械工業会「工作機械受注実績調査報告」を基に三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

### 今回の結果

- 25年10月の貿易収支（季調値）は▲42億円の赤字となった（図表1）。名目輸出（前月比+0.2%）が横ばいの中、名目輸入（同▲3.0%）が減少し、貿易赤字が縮小した。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質輸出（当社試算、季調値）は、前月比+0.4%と2カ月連続で増加した（図表2）。特に米国向け輸出が増加しているが、9月中旬の自動車関税引き下げによる影響も大きいとみられ、実勢は必ずしも強くない。
- 北米向け乗用車の輸出価格は、4月の関税発効以降に大幅に低下していたが、10月に反転上昇した（図表3）。ただし、自動車関税引き下げ分に相当する変化の側面が大きく、輸出企業が関税コストを負担する動きは続いている。

### 基調判断と今後の流れ

- 貿易赤字は縮小傾向にある。先行きは、下記の通り輸出が伸び悩むことから、小幅の貿易赤字が継続すると予想する。
- 先行きの実質輸出は、横ばい圏の動きを予想する。
- 今後、関税コストの米国消費者への転嫁が見込まれ、需要が抑制されることから、米国向け輸出は伸び悩むと予想する。
- もっとも、世界経済の底堅い成長は、輸出の下支え要因となる。例えば、工作機械の海外向け受注は、10月前年比+20.9%へと伸び率が高まっており、米国向けも堅調を維持している（図表4）。日本が競争力を有する製品の輸出は、関税の影響を受けても、増勢をたどるだろう。
- 輸出の下振れリスクが根強い点には注意が必要である。第1に、過熱感のあるAI関連株価の調整などを契機に米国をはじめとする各国の消費が減速すれば、輸出の減少は避けられない。第2に、日中関係悪化の影響も懸念される。日本製品への大がかりな不買運動への発展など、一段と関係が深刻化に向かえば、中国向け輸出の大幅減少につながる。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.